

1. 社会・治安情勢

- (1) 4月に延期されていたリオ市におけるカーニバルは、2年振りに予定通り開催され、多くの観光客で賑わった。カーニバル期間中にガレオン国際空港に降り立った外国人観光客数は約7万人であり、パンデミック前の2020年に約10万人が訪れていたことと比較すると、観光客数が完全に回復したとは言えなかった。
- (2) 例年の傾向と同様、夏の観光シーズンピークを終え、多くの観光地があるリオ市ゾナスル地区においては今期の犯罪発生件数は落ち着きを見せている。しかし、スマートフォンを狙った窃盗（ひったくり）被害に複数邦人が被害に遭っており、日常生活においても引き続き警戒が必要である。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) リオ州公安統計院（ISP）によれば、2022年度第1四半期（4～6月）中のリオ州内における殺人事件発生件数は、702件で、前期（2021年度第4四半期）と比べて約7%減少した。
- (2) また、リオ州内における強盗事件発生総数は、26,029件（前期比+3%）と微増し、2021年度第3四半期（10～12月）から微増傾向が継続しており、特に屋外での強盗（車両強盗、通行人強盗、携帯電話強盗）件数の増加が認められた。
- (3) 観光客が大幅に増加する夏場を終えた後、リオ市の主要観光地の一つであるコパカバーナ地区では、通行人強盗が137件（前期比-33%）、携帯電話強盗が73件（前期比-40%）と大幅に減少した。この減少傾向は、第1四半期において例年見られるものである。しかし本年度は、過去5年の中でも最も多い発生件数が認められており、引き続き警戒が必要である。

3. リオ州犯罪発生状況（2021-2022年度）

	2021年度			2022年度
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期
	(7～9月)	(10～12月)	(1～3月)	(4～6月)
殺人	772	736	760	702
強姦性交等	1,283	1,316	1,381	1,356
商業施設強盗	756	666	651	617
住居侵入強盗	224	261	182	197
車両強盗	6,233	5,218	5,776	5,922
通行人強盗	10,218	8,969	9,345	9,674
交通機関内強盗	2,217	1,799	1,620	1,808
携帯電話強盗	3,575	3,340	3,534	3,867
強盗総数	28,768	24,543	25,191	26,029
窃盗総数	28,188	31,094	37,643	40,062
取扱件数	155,149	157,726	182,058	187,945
※警察介入の際の致死事件	290	257	318	303

4. 一般事件等（邦人の安全に係るものを抜粋）

（1）車両強盗（リオ市北部ペーニャ地区）

4月2日午後2時ころ、ブラジル大通り沿いのガソリンスタンドにおいて、給油を終えた被害者が、支払いのため降車しようとしたところ、覆面をした犯人2人組にけん銃で脅され、車両を強奪された。

（2）短時間誘拐（電撃誘拐）（バハ・ダ・チジュカ地区）

4月10日午後9時ころ、子供連れの母親が運転する車両に、けん銃を持った犯人が乗り込み、短時間誘拐される事件が発生した。犯人達は車内で被害者を脅迫し、携帯電話の銀行アプリを使って指定口座に現金を送金させたうえで解放し、車両を奪って逃走した。

（3）強盗致傷（フラメンゴ地区）

5月12日夜、外国人観光客夫婦が海岸沿いの公園を散歩していたところ、夫が犯人に刃物で刺され、所持していたパソコンを強奪された。

（4）トラック強盗に伴う銃撃戦（ガレオン国際空港付近）

7月6日午後、ガレオン国際空港付近の主要幹線道路リーニャ・ベルメーリョにおいて、トラックの積み荷を狙った強盗犯人と、トラックを護衛していた警備員の間で銃撃戦が発生し、流れ弾により付近を走行していた車両の夫婦2名が負傷するなどした。

5. テロ・爆弾事件発生状況

(1) 政治集会における爆発物投げ入れ事件（セントロ地区）

7月7日夜、セントロ地区において開催されていた左派主催の集会会場に、汚物のようなものが入った爆発物が投げ込まれたが、幸い負傷者はなかった。

6. 誘拐・恐喝事件発生状況

邦人被害は認知していない。